

# 令和5年度 年間指導計画

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	農業	科目	生物活用	単位数	2	学年・学科	2学年・A科
教科書	実教出版「生物活用」		副教材				

学習目標	<p>○社会動物の活用に必要な資質・能力を理解するとともに、関連する技術を身に付けます。</p> <p>○生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。</p>
学習方法	<p>○学習内容を分かりやすく説明・板書します。また、学習プリントやスライドを活用し、わかりやすい授業を行います。</p> <p>○問題プリントの演習に取り組みます。</p> <p>○地域の実践例を体験しながら理解を深めます。</p>

	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					調査	調査以外
学習評価	a 知識・技能	社会動物の活用に関する基礎的な知識を身に付け、それらの生物の特性を活用した活動や療法の特徴を理解します。社会動物の活用に関する基礎的な技術を身に付け、その技術を適切に活用します。	前期中間	40 %	30	10
			前期末	40 %	30	10
			後期中間	40 %	30	10
			後期末	40 %	30	10
	b 思考・判断・表現	社会動物の活用に関する諸課題にの解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に課題を適切に判断するとともに、科学的にとらえて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けます。	前期中間	30 %	20	10
			前期末	30 %	20	10
			後期中間	30 %	20	10
			後期末	30 %	20	10
	c 主体的に学習に取り組む態度(意欲)	社会動物の活用について興味・関心をもち、課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けます。	前期中間	30 %	10	20
			前期末	30 %	10	20
			後期中間	30 %	10	20
			後期末	30 %	10	20

学期	単元名 (題材)	学習内容 (小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 生物活用の意義と役割 1 生物活用と意義と役割	・生物活用とは何かについて学びます。	○	○	○	a.生物活用の意義と役割について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b.生物活用の意義と役割に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 c.生物活用の意義と役割について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・授業ノート ・提出課題 ・小テスト ・定期調査
		・生物活用の大切さ、私たちの暮らしと生物活用について学びます。	○	○	○		
	2 生物活用とプロジェクト学習	・生物活用におけるプロジェクト学習について学びます。		○	○		
		・私たちの暮らしと動物について学びます。	○		○		
	第3章 動物の飼育と応用 1 動物と人間生活	・動物がもたらす効用について学びます。	○	○	○		
		・動物の活用、扱うさいの留意点について学びます。	○	○			

前期末	2 イヌの飼育と活用	・イヌの種類と特性について学びます。	○	○	a.動物の飼育と応用について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b.動物の飼育と応用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 c.動物の飼育と応用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・授業ノート ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
		・イヌの飼育と管理、活用について学びます。	○	○		
	3 ネコの飼育と活用	・ネコの種類と特性について学びます。	○	○		
		・ネコの飼育と管理、活用について学びます。	○	○		
後期中間	4 ウマの飼育と活用	・ウマの種類と特性について学びます。	○	○	a.動物の飼育と応用について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b.動物の飼育と応用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 c.動物の飼育と応用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・授業ノート ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
		・ウマの飼育と管理、活用について学びます。	○	○		
	5 そのほかの動物の飼育と活用	・そのほかの動物の飼育と管理、活用について学びます。	○	○		
	第5章 生物活用の実践 1 交流活動の心がまえ	・交流活動の大切さ、心がまえについて学びます		○		
	2 交流活動の実際	・動物を用いた活動の行います。	○	○		
後期末	第4章 生物を活用した療法 1 生物を活用した療法	・生物を活用した療法について学びます。	○	○	a.生物を活用した療法について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 b.生物を活用した療法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 c.生物を活用した療法について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・授業態度 ・発問評価 ・授業プリント ・授業ノート ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
	2 動物介在療法	・動物を治療に活用した療法について学びます。	○	○		
		・動物介在療法とは何かについて学びます。	○	○		
		・世界や日本における動物介在療法の実際について学びます。	○	○		